

**製品名: カゼインキナーゼ Iγ1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07943**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	49kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSNK1G1
別名	CSNK1G1; Casein kinase I isoform gamma-1; CKI-gamma 1
遺伝子 ID	53944.0
SwissProt ID	Q9HCP0
免疫原	抗血清はヒト CKI-γ1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

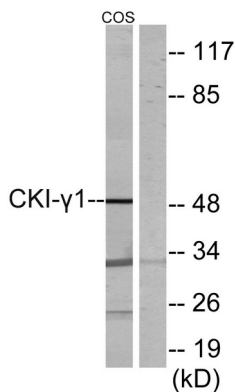
この遺伝子は、カゼインキナーゼ I 遺伝子ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーは、カゼインなどの酸性タンパク質をリン酸化するセリン/スレオニンキナーゼで構成されています。コードされているキナーゼは、クラスピンをリン酸化することに

より、複製フォークの停止に反応して細胞周期チェックポイントを停止させる役割を果たします。この遺伝子の変異は、非症候性早発性てんかん (NSEOE) と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2016年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: カゼインキナーゼは、カゼインなどの酸性タンパク質を基質として優先的に利用することで機能的に定義されます。多数のタンパク質をリン酸化できます。Wnt シグナル伝達に関与します。PTM: 自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CK1 Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。カゼインキナーゼ I サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: モノマー。

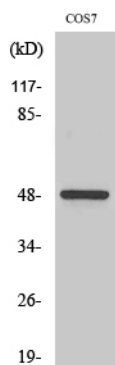
## 研究分野

ハリネズミ;

## 画像データ



COS7 細胞ライセートの CKI-gamma1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーン  
は合成ペプチドでブロッキングされている。



カゼインキナーゼ Iγ1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解  
析